

第 55 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	上島ゼミ	チーム名	グラサンパンダ
タイトル	未来を創造する人材育成～教育と労働の適応～		
テーマ群	g) その他		
メンバー	井上泰地		
研究計画内容	【研究背景】次世代を担う若年層の活躍システム構築は喫緊の課題である。従来の詰め込み教育や画一的な評価は、生成 AI 時代において主体性や問題解決能力（非認知能力）の育成・評価に疑問が残る。本研究は、大学教育の変革が、学生の労働市場適応力やキャリア自己効力感に及ぼす影響を解明することを目的とする。 【研究内容】大学教育の「学び方」と「評価方法」の変化が、学生の「主体性・意欲」と「労働の適応」に与える影響を定量・定性的に分析する。 1. 教育変革とキャリア自己効力感の実証調査 研究問い： 現代社会へのコミットメントを重視した教育（例：PBL 型学習）は、学生のキャリア自己効力感および労働市場適応力にどのような影響を与えるか？ 実行計画： 学内アンケート調査： PBL 受講経験者と非経験者を対象に、キャリア自己効力感や学習意欲の比較アンケートを実施。 インタビュー調査： 地域連携プログラムやインターンシップ参加者に、職業観や社会貢献意識の変化についてヒアリングし、定性データを収集する。 2. 評価方法の変化と非認知能力の育成効果分析 研究問い： 成績評価方法の変化（例：ルーブリック評価、ポートフォリオ評価）が、学生の主体的な学びと非認知能力（例：協調性）の育成に及ぼす効果は何か？ 実行計画： 文献調査と先行研究の整理： 日本および欧米の大学におけるルーブリック評価等の導入事例と、非認知能力への効果に関する学術論文や大学報告書を収集・分析する。 教員への意見聴取： 新しい評価方法を導入する学内教員に対し、教育効果や課題について意見を聴取する。 【期待される効果】学術的貢献： PBL や評価方法の変革が学生のキャリア形成に結びつくプロセスを実証的に提示し、教育社会学・労働経済学の知見に貢献する。 実務的貢献： 大学の教育プログラム設計やキャリア支援部門の具体的支援策立案のための客観的指標を提供する。 学生への還元： 学生が「詰め込み型学習」から「未来を創造する学習」へと意識を転換するための具体的な学び方を提案する。 【参考文献】 ・溝上慎一・成田秀夫「アクティブラーニングとしての PBL と探究的な学習」東信堂（2016） ・渡辺三枝子「キャリアの心理学」ナカニシヤ出版（2018）		